



**教育目標** 新しい時代を担う豊かな心と知性を身につけた実践力のある生徒の育成

**知性**：自ら学び考える生徒 **友愛**：心豊かな生徒 **健康**：健康で実践力のある生徒

## 2学期が始まる リモートで始業式を行いました

8月25日(水)から2学期が始まりました。夏休み大きな事故や事件もなく、みんな元気に登校しました。2学期の始業式は、新型コロナウイルス感染症対策や熱中症対策のために、全生徒が集まって行うのではなく、リモートによる形で行われました。

校長式辞では、夏休みの一中生の活躍と東京オリンピックから考えてほしいこと、さらには新型コロナウイルス感染症防止対策についてお話をさせていただきましたが、オリンピックに関しての部分を紹介します。

今回のメダルを獲得した選手の中に、皆さんと同じ中学生が2名いました。スケートボード競技ストリートで金メダルに輝いた中学2年生13歳の西矢椛(にしやもみじ)さんと、同じくスケートボード競技パークで銀メダルを獲得した中学1年生12歳11カ月の開心那(ひらきここな)です。2人ともあどけない顔をしている中学生ですが、スケートボードという好きなことを一生懸命取り組んできた結果が、最年少の金メダリストと最年少のメダリストになりました。

皆さんも、好きなことに一生懸命取り組んで、努力を継続していけば、この2人のように夢は実現していくと思います。いつも私が言っている「夢は見るもの 叶うもの 人の三倍励むもの」ですね。

もう一つの話は、今回の東京オリンピックのテーマに「多様性と調和」というのが掲げられていました。すこし難しくなりますが、多様性とは、国籍や人種、性別、性的指向、身体的特徴や障がい、宗教、考え方や価値観の違いなど、お互いを理解して、そんな多様性を尊重して、競技をしていこうことです。

今回の日本選手団の中には、外国にルーツをもつ選手がたくさんいます。柔道のウルフ アロン 選手、バスケット女子の馬瓜 エブリン 選手、オコエ 桃仁花 選手、そしてテニスの大坂 なおみ 選手などです。みんな日本人として日の丸を背負って頑張っていました。また、男子飛び込みのイギリス人のトム・デイリー選手は会場で編み物をしていることで有名になりましたが、自分がゲイであることを公表して同性婚をしている選手ですが、見事金メダルに輝きました。

このように様々な個性を持っている選手が「多様性と調和」をテーマに競技したことによって、多くの人たちにスポーツのすばらしさや感動を与えてくれたのです。

そこで皆さんもこの「多様性と調和」について、自分たちの身近な点でも考えてみましょう。皆さんの学年・学級・部活動、さらには学校には様々な人がいます。身長の高い人・低い人、自分の考えを強く主張できる人・できない人、おしゃべりな人・無口な人、勉強の得意な人・不得意な人等など、225名の生徒がいれば225の個性があります。まさに多様な個性と一緒に生活をしているのです。

そんな外見や個性を、お互いが理解して認め合い、その人の人格を尊重して調和していくことが大切なのではないでしょうか。「他人のちがいを知り、自分のちがいを示す」ことができれば、皆さんの持っている個性や能力が発揮できると思います。この一中がそんな学校になれば、当然学校は楽しい場所になることでしょう。皆さんもこの「多様性と調和」を意識してほしいと思います。(以下略)

校長式辞の後、1年代表●●●●さん、2年代表●●●●さん、3年代表●●●●さん、生徒会代表●●●●さんが「2学期の抱負」しっかりと発表していました。



リモートでもしっかりとした態度で参加



校長式辞



2学期の抱負を述べる●●●●さん

